

回 覧

厚別区連携だより R3



発行：厚別区幼保小連携推進協議会

10月25日(月)、第2回厚別区幼保小連携推進協議会を、ZOOMによるリアルタイムオンラインで開催いたしました。昨年の新型コロナウイルス感染症拡大以降、様々な研究会、研修会がオンラインで開催されていることも有、38施設から64名の方が参加してくださいました。

今号では、アンケートに御回答いただいた内容から皆様と共有したい御意見などをまとめました。当日参加いただけなかった皆様にもご覧いただき、厚別区の幼保小連携・接続について一緒に考え、そしてまた一歩前進させてまいります。

講演会テーマ

「幼児教育と小学校教育の滑らかな接続」

～生活科の視点から～



講師：北翔大学 教育文化学部 教育学科 教授 磯島 年成 氏

講師略歴： 札幌市内の小学校の校長先生として 御勤務されたのち、令和2年4月より 現職。

現在札幌市生活科・総合的な学習教育連盟 会員、日本生活科・総合的な学習教育学会 会員
生活科については、幌南小学校で生活科新設前の低学年社会・低学年理科より試行、実践を始める。白楊小学校では隣接する札幌市立白楊幼稚園との連携計画・実践を行う。

講演内容概要：

- ① **今教育は変わり目である**
よりどころとなる資料（学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領）を改めて確認することが必要
- ② **基本の目 求められている資質・能力とは・・・ 幼保は？小学校では？**
- ③ **資質・能力からみた幼保小の接続** →生活科がつなぎ役
- ④ **「長い目・広い目」をもつことが大事である。スタートカリキュラムとは・・・**
→遊びを漠然ととらえるのではなく視点をもって＝**基本の目**
小学校生活にどのようにつながっているかという視点＝**長い目・広い目**
- ⑤ **幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**→幼児期から小学校の姿を思い描く
- ⑥ **「基本の目から長い目・広い目へ」小学校で「幼児期に学んだものが見える時間」**
→小学校の中休みの子どもたちの姿から幼児期の学びが見える
- ⑦ **「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の小学校での姿を思い描くために**
→「札幌市学校教育の重点」の活用
→教科書の活用
- ⑧ **生活科から見えてくる「長い目・広い目」**
- ⑨ **幼児教育と小学校教育の滑らかな接続**→各幼稚園・保育園・小学校でどんなことを考えたらよいか
※各校・園に当日資料をお送りしておりますが必要な場合はあつべつきた幼稚園までご連絡ください。

その後いただいた質問：

幼保より「1年生と2年生の生活科の教育の内容の違い、1年生と2年生では姿にどのような違い、変化があるのか」

生活科は、1年と2年で目標も内容も同じです。創設の時は、1年6つ、2年6つと（内容）を分けていたのですが、最初の改訂時に1年2年をわけずにまとめて8つの内容となりました。2カ年で育てようということです。1年生の経験があつての2年生なので、そのことを考えて各校でカリキュラムをつくっています。（生活科や総合は、国語や算数と違って自校で年間計画をつくることになっています）



磯島先生

※紙面の関係で掲載しませんが、生活科1学年と2学年の年間計画（例）などの資料もいただきましたので興味のある園は、お送りします。あつべつきた幼稚園までお知らせください。

1・2年生の年間計画と磯島先生がお話されていた教科書の上巻・下巻の活動の様子を比較すると児童の姿などもイメージできるのではないかとのことでした。

また、これを機に近隣の小学校と話題にしてみてもよいですね。

アンケートから



幼保小接続について、本日の講演で関心をもったこと

小学校

- ・1年生の教科内容と幼稚園での学びの内容がどのように結びついているのか、その系統性を知りたいと思った。
- ・生活科を軸に具体的で分かりやすかった。幼稚園教育要領などについて、自分は分かっていなかった部分が多くて勉強になった。
- ・生活科で身に付ける資質・能力が「基礎」であり幼保と小の学びをつなぐものであることを初めて知った。この教科の特性を生かして、新一年生の子どもたちが安心して小学校生活を始め、確実に資質、能力を身に付けられるよう、本校の取組を見直したいと考えた。
- ・「中休みは幼保と小をつなぐ結束点」・・・休み時間の子どもたちの姿にこそ子どもの思いや願いが現れると学んだ。低学年の学びにおいても、子どもの思いや願いを発信源とした探究が展開されるよう工夫が必要だと感じた。
- ・中休みの時間に、幼児期に学んだものが表れるという部分。確かにそうだ。そういうことだったのかと、はっとさせられ非常に納得した。



保育所・認定こども園・幼稚園

- ・小学校の学習内容を知っておくということは、自分では考えもしなかったので関心がもてた。鉛筆の持ち方など、園でも言葉かけや配慮ができることが多くあると感じた。
- ・小学校理解、今求められている項目に「性別によらない名簿の実施」に驚いた。本園でも少しずつジェンダー

レスの取組をしているがなかなか定着しない。改めて職員間で話したいと思った。

- ・ 保育園の何気ない日常が、小学校に行っても子どもの姿としてしっかり見られていること、それが幼い頃からのつながりだと学校の方で理解し受け止めてくれていたことに喜びを感じた。
- ・ 幼児教育と小学校教育のなめらかな接続を行うために、生活科の理解を深め、教科書や入学のしおりを活用し理解したうえで保育を行っていくことで、より就学を見据えた関わりができると感じた。
- ・ 小学校でも「子ども主体の生活」が行われているということ。1年生の教科書の内容を知ることの意味があると、幼児教育施設が理解を深めるために「小学校の教科書を活用していく」という提案。具体的に園でできることが見えてきそうだ。
- ・ 基本の目、長い目、広い目から求められている資質、能力は、それぞれの望ましい育ちの姿をイメージすることで具体的に理解できた。また、就学後のイメージをもち、理解することで普段の保育に役立てられることがたくさんあることが分かった。教科書については購入してみたい。
- ・ 幼稚園で体験したことが、小学校～高校までしっかりつながっていて、大切にされていることを実感した。まずは、修了までにたっぷりと体験を重ねていきたい。
- ・ 幼児教育に求められる資質・能力を、具体的に子どもたちの姿をイメージしながら保育に取り入れていく大切さを改めて感じた。

今後、「育ちと学びの連続性」について深めていくために、
次年度研修したい内容など

小学校



- ・ 集団になじめない子、問題行動のある子等についてその実態や対処について研修したい。
- ・ 実際に子どもたちが過ごしている姿を見合うのは大切だと思った。
- ・ コロナ禍なせいなのか、不登校傾向が増えている。低年齢化が進んでいる。そして保護者も危機感が感じられない。その傾向や保護者の考えなども幼保の先生と話したい。
- ・ 個別の支援を必要とする子に対する見方や支援の手立て。
- ・ 幼保の取組を小で生かしていくために、地域の幼保での子どもたちの様子や先生方の思いや願いを知りたい。
- ・ 幼稚園、保育園における、遊びを主体とした毎日の具体的な活動について、知りたいと思った。

保育所・認定こども園・幼稚園

- ・ コロナで研修ができず、今回のように zoomで行うことになったが、出来れば小学校の先生と直接お会いして話したい。来年度就学する幼児のことはもちろん、就学した幼児がどうなっているか話を伺いたい。
- ・ 年長児の要録、現場の先生がたはどのようなことを知りたいのか。
- ・ 幼児教育の段階で取り組んでほしいこと、具体的なこと。
- ・ 幼稚園の育ちの願いと小学校で求められる資質をすり合わせ、互いに理解し合える研修。
発達の遅れ、障がい、グレーゾーンの子がたまずくポイント。園で教師の援助なしでは難しい子は通常学級でどのように過ごしているのか。勉強だけでなく、中休みの過ごし方、持ち物の管理、移動教室、時間の管理など。
- ・ もう少し深いところまで連続性について知ることができる研修があるといい。

- ・学校に訪問できるようになれば、1年生の授業見学をしたい。先生たちと意見交換できるといい。
(テーマ：読書など)
- ・実際に生活科の授業を受けてみたい。1年生、2年生の授業内容の違いなど。
- ・幼稚園の遊びをぜひ見ていただきたい。研修の際に、幼保小でお便りの共有もできたらいい。
- ・自分の行きたいところで自由にやりたいことをする中で、想像を膨らませたり、自分で考えたりいきいきとした姿が見られ、個性を伸ばす時間になると感じました。
- ・コロナ禍では幼稚園でも自由に場所を決められないなど制限が出てきているので、個々で好きなことをする時間を工夫して作りたいと思った。

その他

- ・zoomで研修が実現できよかった。
- ・今日の話で「協同」というキーワードがあった。
小中一貫した教育の話では「協働」がキーワードになってくる。
小学校生活の中で「協同」から「協働」へとスムーズにつながっていくことも意識していかなければと思った。
- ・生活科、総合的な学習の時間の意義を見つめ直し、幼保小の学びの継続について多くのことを学べた。
- ・理論も大事だが、具体的な実際の姿を見ることで、さらに理解が深まると思う。コロナのこともあり、参観などはできなくても動画などを活用しながら、いずれ交流する機会があればと思った。
- ・本日は1人で参加だった。長期休業中であれば担任も参加しやすい。
- ・ちょうど園で、1年生の教科書を購入していたが具体的に活用できていなかったため、大変参考になった。
教科書を年長児に見せるのも期待を高められると思った。



お知らせ

【第3回厚別区幼保小連携推進協議会 幼保小連絡会】

日時: 令和4年1月17日(月) 15:00~16:45
 開催方法: 電話連絡(会場参集はしません)

